

科目名	図書館特論 I (メディアとジェンダー)
科目分類	社会情報学部-司書課程
担当教員名	松本 侑壬子
ローマ字	Matsumoto Yumiko

1. ねらい

私たちを取り巻く情報の波—活字による情報の中心である新聞・雑誌、速くて見やすいテレビニュース、楽しく覚えやすいCMや広告、そして無意識のうちに生活必需品となってきているインターネットや携帯電話など。こうしたさまざまな情報媒体を「女性」という切り口で考えてみましょう。

メディアを通して見えてくる女性の姿は、生きた女性の現実を正しく伝えているでしょうか。子供や弱者の声は十分に反映されているでしょうか。情報の中身を理解し判断するには、情報の流れや仕組みをきちんと自分のものにしなければなりません。図書館などで資料を探し、情報を整理、分析、提供するときにもジェンダーの視点は重要です。

マスメディアで働く女性はまだ極めて少数派ですが、それだけに今後女性が情報発信の分野に進出・活躍する可能性はより大きいといえます。女性が男性の活躍にとって代わるというのではなく、女性と男性の複眼で社会を見つめ、情報を伝えることで、社会を見る視野がより広がり現実社会への理解がより深まります。これは情報の発信側のみならず、受け手にとっても重要なことです。

30年のキャリアを持つ元ジャーナリストとしての経験から、いま若い皆さんに伝えたいことは少なくありません。メディアを通して女性の問題を一緒に考えていきましょう。

(この授業では履修者数の調整をすることがあります)

2. 内容

1. はじめに—マスメディアの仕組みとメディアウォッチング。
2. メディアの中の女性像—“見られる女・見る男”の長い歴史—名画から映画、漫画、CM…まで。
3. 女性雑誌 ①おじさんだっってかわいい—女性雑誌に見る“女の子文化”の社会化。
②戦争と女性雑誌 ③“女らしさ”の再生産
4. 広告の中の女たち—広告はマスメディアを支え、女性は広告を支える。
5. テレビの裏表—制作現場からの報告。
6. 新聞を読んでいますか?—女性と新聞の距離
①テレビと新聞—メディアとしての比較。情報量を比べてみよう。
②ニュースは作られる—女性の視点で読むということ
③差別用語の変遷。
④女性記者に聞く(ゲスト)—仕事の喜びは何ですか?
6. メディア・リテラシーを身に着けよう。

3. 評価

出席40点およびペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは特になし。必要に応じてその都度資料配布する。

【推薦書】後藤将之著『マス・メディア論』(有斐閣コンパクト) 361.54/G

佐野山寛太著『現代広告の読み方』(文藝春秋) 674/S

村松泰子他編『メディアがつくるジェンダー』(新曜社) 367.2/M